

安来と雲伯鉄鋼の創業

明治時代（1868～1912 年）の急速な工業化は、大量の鉄と鋼を必要とした。こうした需要の多くが輸入された西洋の炉でまかなわれるようになり、たたら製鉄所の経営者たちは競争に勝てなくなることを恐れた。1899 年、たたら製鉄の技術を発展させ、この地域の製鉄の長い伝統を築き上げるために、5 人の企業家グループが共同で雲伯鋼鉄合資会社を設立した。同社は安来を拠点としていた。鉄鋼の生産だけでなく、奥出雲の小さな鉄工所の公認仲買人も務めていた。

輸入炉を使用する製鉄所は、より大量の鉄鋼を生産することができたが、高品位金属の生産においては競争力が低かった。雲伯鋼鉄の技術者たちは、より効率的で費用対効果の高い方法で高品位金属を生産する方法を開発し、それが市場での彼らの専門となった。

雲伯鋼鉄の努力は安来特殊鋼（YSS）はその硬度と耐久性で知られている。この鋼は、鋼製工具、剃刀、ボールベアリング、電子機器など、精度と均一性が要求される製品に特に求められている。この新素材の生産拠点として、安来は "鉄の町" として全国に知られるようになった。